

令和元年度 学校関係者評価報告書

学校法人中央総合学園 中央動物看護専門学校

学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会は「令和元年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を令和2年9月23日に実施したので、下記のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員

企業等委員：富岡 健一郎 (NPO法人犬の総合教育社会化機構)

卒業生：横手 郁美 (中央動物看護専門学校 卒業生)

保護者：小鮒 千春 (中央動物看護専門学校保護者会長)

2. 学校関係者評価委員会の流れ

学校関係者評価委員会では、自己点検について説明し、評価結果について検討いただきその評価を検証していただくとともにご意見ご助言等を頂いた。

3. 令和元年度自己点検・自己評価における学校関係者評価(中央動物看護専門学校)

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組等
1. 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none">●建学の精神のもと、教育理念・目標を定め、社会のニーズに対応した社会人の育成に努力している。●学生の多様化に対応できる情報を共有化するための職員会議等を実施している。●学生等に対して学生生活の手引きや講義概要（シラバス）、ホームページなどに掲載することで明文化している。●インターンシップ評価表の中に企業の求める人物像の記入欄を設け、社会のニーズに対応するように努力している。	<ul style="list-style-type: none">○引き続き社会のニーズを踏まえた、新たな知識・技術を提供する機会を拡充していく。○職員同志の連携を図るため、職員会議は隔週で実施する。○保護者に対してさらなる周知を図るため、保護者会等でも説明を行う。○次年度に関しては、新学科増設の為、教育目標の一部を修正する予定である。
2. 学校運営	<ul style="list-style-type: none">●ホームページをリニューアルし公開情報を掲載し、更に利用者にとって分かりやすい情報を発信している。	<ul style="list-style-type: none">○現在次年度のホームページのリニューアル準備をしているところである。
3. 教育活動	<ul style="list-style-type: none">●動物看護学科については、現在業界団体との連携が美容系のものに限られてしまっている。コアカリキュラムの縛りもあるた	<ul style="list-style-type: none">○動物看護学科では、獣医師の意見を取り入れられるように動物看護系の企業連携も取り入れていきたい。また、来年

	<p>め、カリキュラムの見直し等はなかなか思う様にならないのが現状である。</p> <p>●実習先から実習評価表に学生評価をして頂くことで、学生それぞれの課題が見え就職に繋げることができている。</p>	<p>度新設される学科でも、引き続き企業連携を続けていきたい。</p> <p>○カリキュラムの充実に関しては、動物看護師の国家資格化に伴い、認定校となるための要件やカリキュラム等がまだ何も決定していないため、臨機応変に動く必要があるが、オリジナル科目の中で対応していきたい。</p> <p>○教育課程編成委員などの外部の意見も取り入れながらコアカリキュラム以外のカリキュラム作成をしている。企業連携やインターンシップなど外部と関わる教育を引き続き行う。</p>
4. 学修成果	<p>●就職率については、6年連続して100%である。また、動物看護師統一認定試験については、全員が合格することができた。</p> <p>●資格・就職・退学防止等、教職員一同目標達成するため日々取り組んでいる。</p> <p>●卒業生の動向については、同窓会案内の返信時に現在の職業を記入させることで転職状況の把握をするようにしている。</p>	<p>○資格取得向上のため全国合格率を上回ることを前提に引き続き高い教育水準を保てるように、職員も現場の情報を取り入れ、授業に組み入れていく。</p> <p>○卒業生については、転職後に求人情報を提供し、再就職に繋げている。</p>
5. 学生支援	<p>●本グループには、就職支援センターという専門部署があり、お互いに連携を取りながら面接指導などを実施し、一人ひとりに合った対応をしている。</p> <p>●新たな奨学金制度も増え、学生への周知を徹底し、希望者への支援ができるように体制を整えている。</p> <p>●入学後や長期休み後に担任面談を実施し学生の不安を取り除くようにしている。</p> <p>また、保護者会を実施し、保護者との連携に取り組んでいる。</p>	<p>○引き続き、一人ひとりに合った学生のケアを行い、保護者との連携により不安のない学校生活を送れるように配慮する。</p> <p>○奨学金関係の手続きでは、各自で入力するものが多く、スムーズに期限内に提出できるように援助する。</p> <p>○卒業生等への情報発信も引き続き、HP・学園新聞・SNS等で発信を続ける。</p>
6. 教育環境	<p>●学内の施設・設備、備品については、改善の余地がある。特に備品の数については、種類によって十分とは言えないものもある。</p>	<p>○備品購入については、学生が直接使用する器具等、優先順位をつけて随時購入し、充実した授業を展開できるようにしている。また、施設についても少しずつ</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ●学外のインターンシップについては、多くの実習先を確保することができ、学生の希望する企業への就職内定に繋げることができている。 ●数年前までは、海外研修を実施していたが、現在は海外との交流はない。 	<p>ではあるが、改修をしている。</p> <p>管理については、管理台帳の追加・修正等を引き続き、徹底していく。</p> <p>○今後も実習先となる企業から卒直な実習評価を頂きながら、学生にフィードバックしていく。</p> <p>○イギリスのチェスター大学との提携を活用した海外研修を復活させる方向で検討したい。</p>
7. 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ●学生募集についての主だったところは、広報本部が担っており、書類管理も含め、適正に行われている。 ●専修学校各種学校の規定に則り、適切に運営が行われている。 	<p>○教育成果を含めた具体的な学校情報を学園新聞やホームページ等で公開することで学校への理解を促進していく。</p>
8. 教育の内部質保証システム	<ul style="list-style-type: none"> ●アンケートは、全学生に対し、非常勤講師も含め全教職員の授業評価を実施している。 ●専門分野における知識・技術習得のための教職員研修については、本グループ全体で実施する研修に参加している。 また、教職員が、それぞれスキルアップのための研修にも参加している。 ●法令を遵守し、自己点検・自己評価を行うと共にそれらの情報をホームページに公開している。 	<p>○教師アンケートは以前から、毎年実施しており、現在はWebを使用しているアンケートに切り替えた為、比較が簡単に行えるようになった。アンケートの結果をもとに、各教職員の資質の向上を図りたい。</p> <p>○学校内で実施する研修の他、専門分野の各協会が実施する教職員研修に参加し、各自スキルアップを図っている。</p> <p>○法令遵守にあたっては、規定を整備し、全教職員研修において周知徹底を図ることにより、コンプライアンスを推進する体制を早期に実現する。</p>
9. 財務	<ul style="list-style-type: none"> ●財務体質が健全であり、適切な財務運営が行われている。 	<p>○外部監査による健全な学校経営を維持するとともに、募集活動の強化、退学率の低減、経費節減に努める。</p> <p>○管理規定を文書化し、より分かりやすい体制をつくっていく。</p>
10. 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ●社会貢献・地域貢献のために定期的な地域清掃の他、ボランティア活動の参加を行っている 	<p>○本校の教育資源を活用して社会貢献、地域活動を行っている。より多くの学生が参加できるよう、これまで同様、学生への呼びかけや運用整備を進めたい。</p>

		<p>○前橋ツナガリズム祭りや動物愛護フェスティバルなど毎年継続しているイベントには、引き続き参加をしていく。</p> <p>また、保護猫の不妊手術のボランティアにも参加しており、こちらについても、引き続き参加を促していく。</p> <p>○地域清掃については、できるだけ広範囲で実施できるように配慮する。</p>
1 1. 国際交流	<p>●外国人留学生の受け入れについては、現在はない。</p>	<p>○留学生の受け入れについては、まだまだ体制が整っていない部分が多いので、更なる改善を図り、日本社会で活躍できるよう教育をしていきたい。</p>

3. 総評

外部の学校関係者委員に上記 1 1 項目に対し報告を行ったところ、委員による評価は良好であった。中央総合学園中央動物看護専門学校の教育活動、学校運営は概ね高い水準で維持されていると評価されたが、引き続き実践的な教育の整備並びに学生の学力向上に対する取り組みと時代に即した教育の質の向上を図ることが望まれる。

企業連携の授業については、回数を増やすことで、練習成果の確認や個人の課題がより明確になるなど、実習内容の充実が図られることが期待できる。しかし、現在は美容分野の授業に偏るため、動物看護やしつけといった授業についても更なる企業連携が必要となる。

動物看護師の国家資格化に伴い、今後提示される学校の設備要件や教員要件等に対応するべく、必要とされる設備はもとより、教員が資格・能力等を再認識し、研修等を利用することでさらに高い資格の取得や技術習得に励むことが求められる。職員のコンピテンシー・スキル向上により授業内容の充実度が増すことを期待する。

以上